

学校だより

令和7年5月30日(金) 第3号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻 3 7 5 0 番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>

「アンバランスパワー」と「シンキングエラー」

校長 細井 博幸

さいたま市では、「子どもたちが内面にストレスを抱え込みやすく、理由もなく不安になったり落ち込んだりし、衝動的な行動が増える」「いじめの認知件数が増加する」この6月を「いじめ撲滅強化月間」としています。本校でも、生徒会による「いじめ撲滅」朝礼の実施、啓発用ポスターの作成、「いじめ撲滅」に向けた学級スローガン作り、いじめの未然防止に向けた授業の実施、いじめに関する簡易アンケートの実施などの取組を通して、いじめ撲滅のための一か月間としてまいります。

さて、昨年10月に文部科学省が発表した令和5年度におけるいじめの認知件数は、小・中・高等学校及び特別支援学校において732,568件であり、前年度に比べ50,620件(7.4%)増加し、昨年度に引き続き過去最多を更新しています。増加の理由として文部科学省は、いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義やいじめの積極的な認知に対する理解が広がったこと、アンケートや教育相談の充実などによる生徒に対する見取りの精緻化、SNS等のネット上のいじめの積極的な認知が進んだことなどを挙げています。また、いじめの重大事態(いじめにより生徒の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められる状況)の発生件数は1,306件であり、前年度に比べ387件(42.1%)増加し、こちらも過去最多となっています。認知件数以上に重大事態の増加率は大変高く、大きな問題と言えます。いじめの重大事態、つまりいじめの深刻化を防ぐ手立てはないのでしょうか。

子ども発達科学研究所主席研究員、和久田学さんの著書『いじめの科学』の中で、いじめ予防には「アンバランスパワー」と「シンキングエラー」の考え方が重要であるとし、2つが揃うことで、いじめはより一層深刻化すると書かれています。

＜アンバランスパワー＞

いじめの特徴に「加害者と被害者の間に力の差が存在することが多い。つまり加害者の方が被害者に比べて強い力をもっている。これがいじめに発展すると、被害者(力の弱い方)は加害者(力の強い方)に対して、やり返すどころか「いやだ」「やめてほしい」と言うことさえできなくなる。

このように、やり返せない状況になって、「にこにこ笑って何も傷ついていないふり」をしたり、「自分が悪いからされる」「いじめを受けていることを誰かに言うのが怖い」と沈黙してしまったりすることで、いじめを拡大させてしまうことがある。

＜シンキングエラー＞

シンキングエラーとは「間違った考え」を意味する。例えば、いじめ加害者が言う「あれは、いじめじゃなくて遊びだった」「みんなやっているから問題ない」「相手も喜んでいた」などというのは、相手の気持ちを考えないことからくる、シンキングエラーになる。さらに恐ろしいことに、集団全体が、「伝統だから」「あれはいじめではなくて指導だ」のようなシンキングエラーを起こしていることもある。いじめをなくしたいと考えたら、大人(教師・保護者・指導者)も自分がシンキングエラーを起こしていないかをチェックすべきである。

それでは「アンバランスパワー」と「シンキングエラー」を解消するためには、どのような対策を講じる必要があるのでしょうか。

「アンバランスパワー」を解消するためには、いじめをそばで見ている傍観者の対応が重要となってきます。いじめの被害者は、助けを求めることがなかなかできません。それは本人の責任ではありません。だからこそ周りにいる傍観者の対応が大切になってきます。傍観者は、まず被害者に「大丈夫?」と声を掛けて孤立させないこと。そして、いじめが起きていることについて大人に伝えることで「アンバランスパワー」が解消され、いじめが起こりにくくなります。

「シンキングエラー」を解消するためには、加害者が自分を正当化しようとする間違った考え方を修正する指導が必要となってきます。加害者は、①責任の否定(仕方なくやった)、②加害の否定(原因は相手にある)、③被害者の否定(遊んでいただけ)、④非難者への非難(相手も楽しそうにしていた)など、相手の気持ちを考えずに、自分勝手な考え方で正当化します。こうした考え方は、「共感性のなさ」から来るものであり、相手の気持ちを具体的にひとつひとつ分かるように生徒と大人が一緒に考えていくことが求められます。

いずれにせよ大人がいち早くいじめに気づき、関わるのが大切です。各家庭におかれましても、お子様の変化への声掛け、気になることは学校へ早急に相談いただき、連携を図っていきましょう。

